



## 愛知県における野生鳥獣による農作物被害の状況（2022年度）

2023年9月

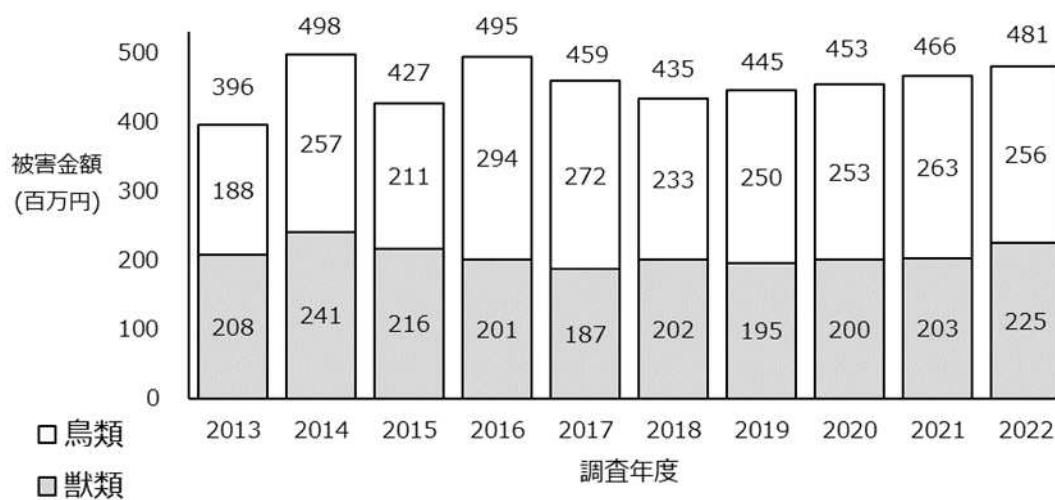
### 1 概況

#### （1）2022年度の被害状況

指標	単位	調査結果	前年比(%)
被害面積	ヘクタール	501	93.3
被害量	トン	2,441	97.2
被害金額	億円	4.81	103.3

- ・前年比で被害面積は減、被害量は微減、被害金額は微増でした。
- ・被害面積の減は、面積の集計方法の統一化によるところが大きいです。
- ・被害金額の微増は、単価が高い茶の被害が増えたことが大きいです。

#### （2）被害金額の推移

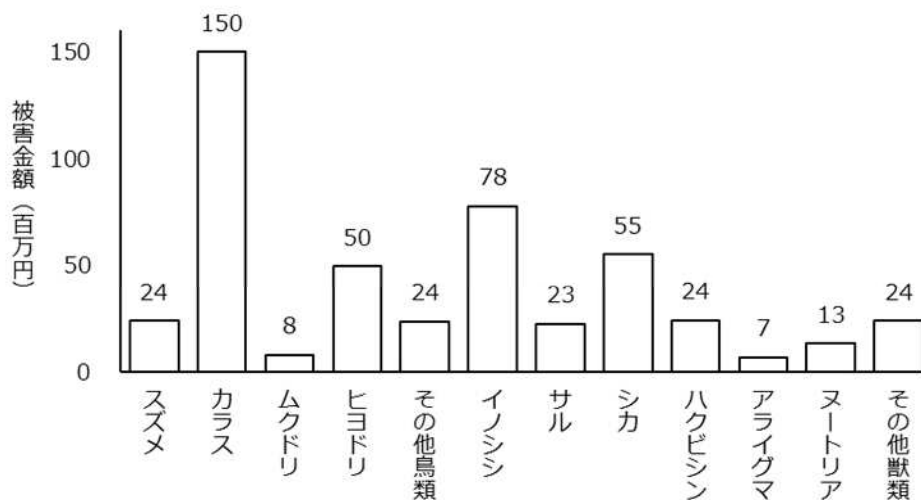


愛知県の野生鳥獣による農作物被害金額の推移(単位：百万円)

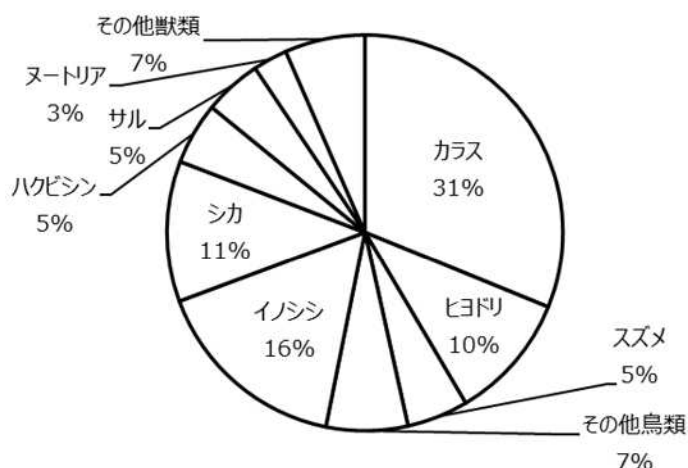
- ・愛知県内で鳥獣被害防止特措法に基づく総合対策が開始された2011年度以降、被害金額は4億円から5億円程度で推移しています。
- ・2016年度から2018年度にかけては減少しましたが、2018年度から2022年度までは毎年103%程度で増加傾向に転じています。
- ・2016年度以降、鳥類による被害金額が獣類を上回っており、都道府県別でも常に上位にあります(2021年度は全国第2位)。



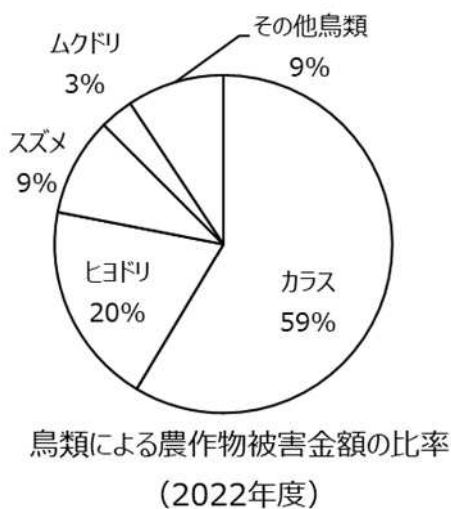
## 2 鳥獣種別の被害状況



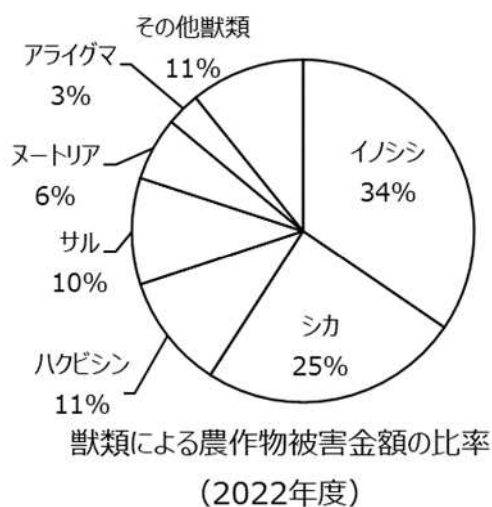
鳥獣種別の農作物被害金額 (2022年度、単位：百万円)



鳥獣種別農作物被害金額の比率 (2022年度)



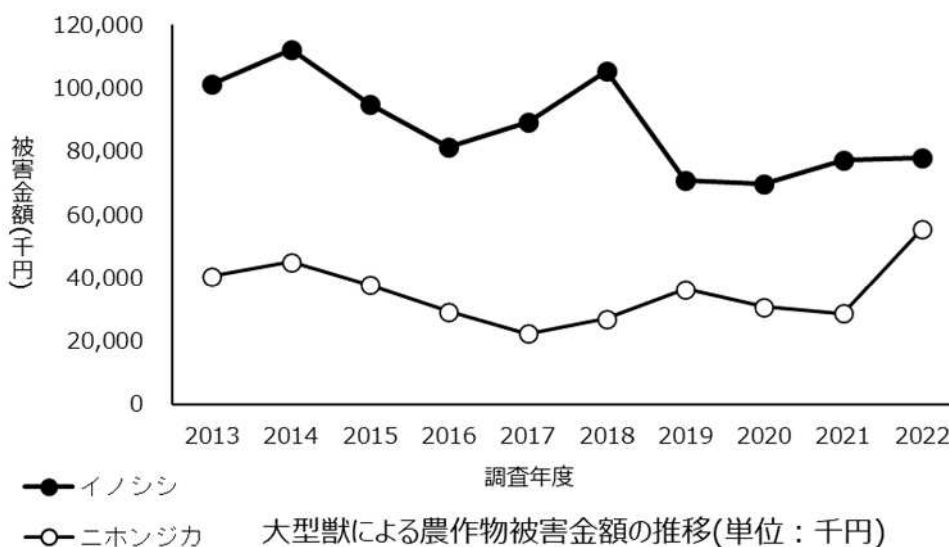
鳥類による農作物被害金額の比率  
(2022年度)



獣類による農作物被害金額の比率  
(2022年度)



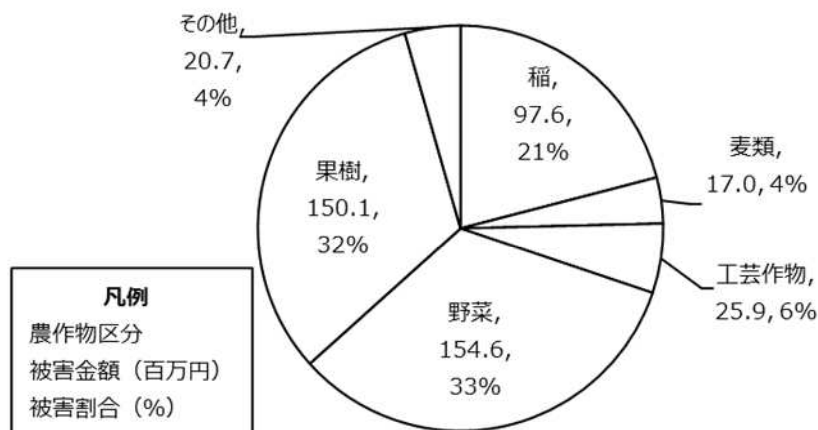
- ・2022年度の鳥獣種別の被害金額は、カラスが第1位(31%)でした(2013年度以降継続)。次いでイノシシが第2位(16%)、シカが第3位(11%)、ヒヨドリが第4位(10%)でした。
- ・昨年度と比較して20%以上の大きく変化があった鳥獣種は、シカ(89%増)、ハクビシン(30%減)でした。特にシカの増加が顕著でした。
- ・鳥類では、野菜・果樹に主に被害を及ぼすカラス、ヒヨドリの被害率が鳥類の79%と大きいことが特徴です。愛知県は園芸農業が盛んであるため、県域全体で被害が発生しており、被害対策が難しいためだと考えられます。
- ・獣類では、大型獣(イノシシ・シカ・カモシカ)による被害率が60%、中型獣(サル・タヌキ・ハクビシン・アライグマ・ヌートリア)による被害率が33%でした。
- ・中型獣種ごとに見ると、サル・タヌキは野菜、ハクビシン・アライグマは果樹・野菜、ヌートリアは稲・野菜が、被害の主でした。いずれの獣種も野菜の被害金額が大きく、野菜の種類については、獣種・地域ごとに異なります。



- ・大型獣(イノシシ・シカ)に注目すると、イノシシ被害は、豚熱のまん延により2018~2020年度に大きく減少しましたが、2021年度は微増となり、2022年度は同程度でした。農作物では、稲、果樹の被害が主でした。
- ・シカ被害は、2019~2021年度は微減でしたが、2022年度に大幅に増加しました。増加した原因は、豊田市で生息域が拡大し、工芸作物(茶)の被害が顕著だったこと、果樹被害が増加したことによるものでした(苗木の食害等)。

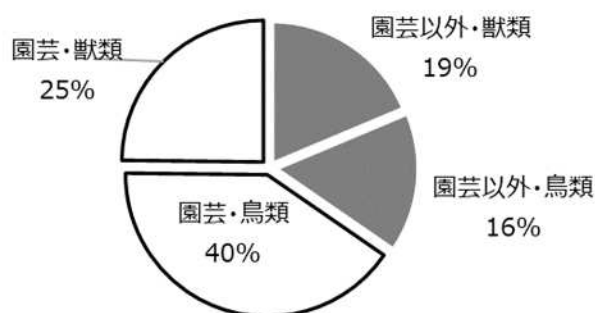


### 3 農作物区分別の被害状況



農作物区分別被害金額の比率 (2022年度)

- ・ 農作物区分別の2022年度被害金額は、野菜が1億5,460万円と最も多く、次いで果樹がほぼ同程度の1億5,010万円、稲が9,760万円となりました。
- ・ 2022年度は工芸作物の被害が昨年度よりも大きく、全体の6%を占めました。この工芸作物の被害の大部分がシカによる茶の被害でした。
- ・ グラフには表れない被害として、シカによるアジサイの食害、カラスの咬傷による牛の乳房炎に伴う乳量の減少の報告がありました。

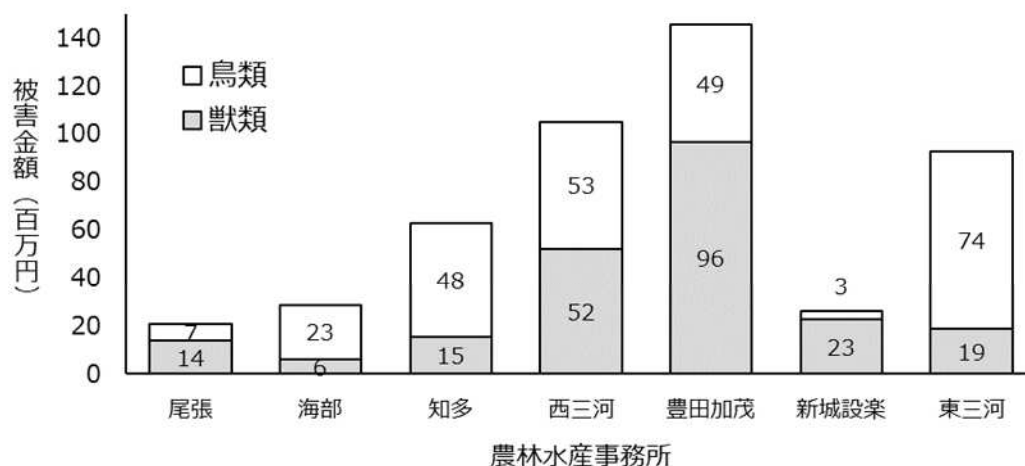


鳥類・獣類、園芸・園芸以外の被害金額の比率  
(2022年度)

- ・ 園芸作物の被害金額が大きく、全体の65%、うち、園芸作物の鳥害が全体の40%を占めています。同様の傾向は被害状況調査の開始時点(2001年度)から続いており、愛知県の農業生産の特徴を反映していると考えられます。

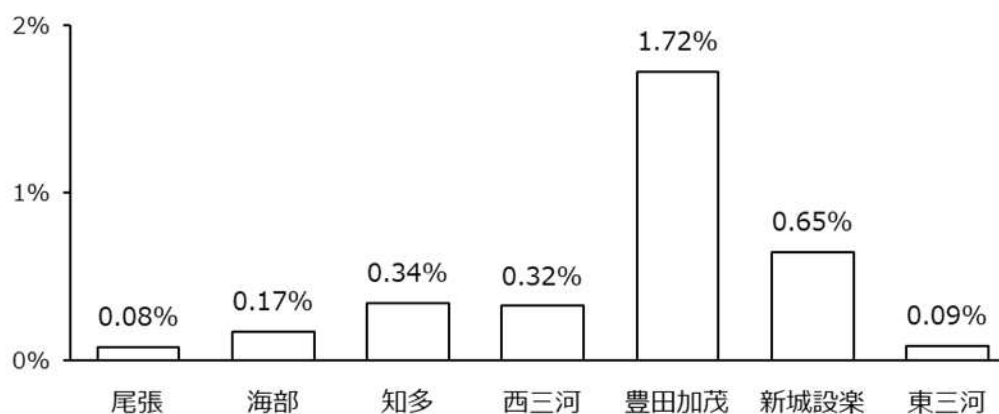


#### 4 地域別（市町村別）の被害状況



地域別の野生鳥獣による農作物被害金額  
(2022年度、単位：百万円)

- ・農林水産事務所管内別の2022年度被害金額は、昨年度と同様に豊田加茂が最も多く、次いで西三河、東三河の順となりました。
- ・獣害の割合が大きい地域は、尾張、豊田加茂、新城設楽で、鳥害の割合が大きい地域は海部、知多、東三河でした。

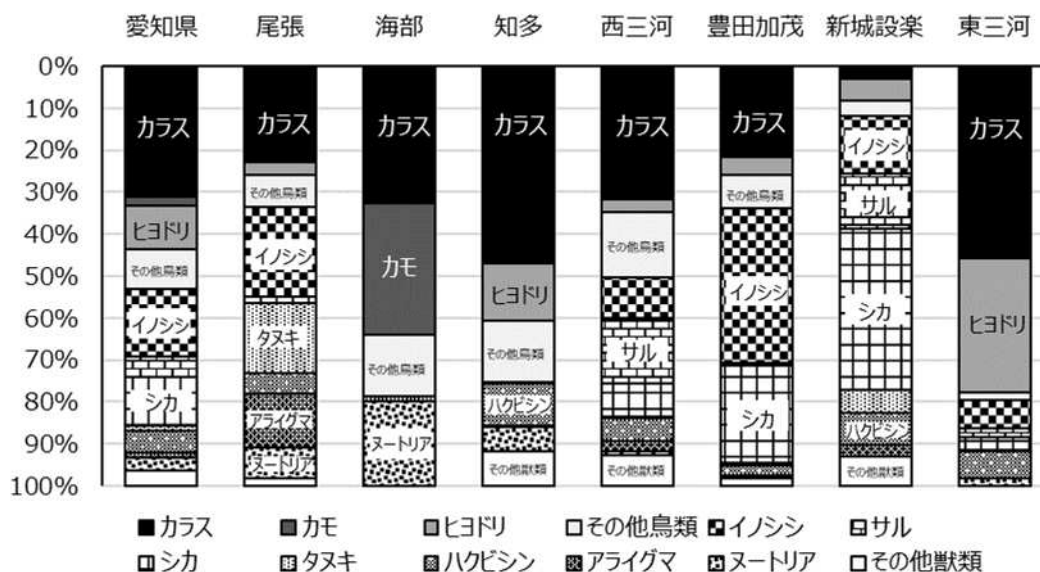


地域別の野生鳥獣による農作物被害率  
(2021年度、被害金額/(産出額+被害金額))

- ・地域別の野生鳥獣による農作物被害率（耕種のみ）を見ると、豊田加茂の被害率が1.72%と最も高く、次いで新城設楽の0.65%でした。
- ・市町村別の農作物被害率では、豊根村が11.69%、東栄町が9.77%と高く、次いで常滑市が2.24%、豊田市が1.96%となりました。

※市町村別農業産出額の公表値が2021年であるため、被害金額も同年度の数値を使用





地域別の鳥獣種別被害率

- ・地域別の鳥獣種別被害率を見ると、被害鳥獣の地域差がよく表れています。
- ・尾張では、カラス、イノシシ、タヌキ、アライグマの順に被害がありました。市町ごとに被害傾向が異なりますが、地域でまとめると、鳥害、大型獣、中型獣の被害が均等にありました。
- ・海部では、カラス害もありますが、他の地域とは異なり、カモ、ヌートリアの被害が目立ちました。これらは水辺を生息環境とする鳥獣種であり、メジャーな鳥獣種への対策と異なる対策が必要です。
- ・知多地域では、カラス、ヒヨドリ、ハクビシンの被害が多かったです。これらは果樹の被害が多い鳥獣種であり、個人による被害対策が必要な鳥獣種でもあります。
- ・西三河地域では、カラス、サルの被害が多かったです。サル対策はワイヤーメッシュの設置だけでは効果が無く、行政と住民が一体となった対策でないと被害軽減につながりません。
- ・豊田加茂では、イノシシ、シカの大型獣による被害が多かったです。特にシカの生息域が広がっており、イノシシ用のワイヤーメッシュ柵を越えて侵入するため、柵の嵩上げの要望が高まっています。
- ・新城設楽では、シカが多く、次いでイノシシ、サル被害が多かったです。これらの獣種は農地に入られると、一度に大面積の被害を与え、被害金額もですが農業意欲減衰への影響も大きいです。
- ・東三河では、カラス、ヒヨドリの被害だけで約8割を占めました。鳥類は効果的な対策が少なく、手間がかかるため、対策が進みにくいことが難点です。